

こちら航空宇宙推進室 ニュースレター

HOSPOへ20社、1.3億円の寄附をいただきました

北海道スペースポート（HOSPO）プロジェクト資金として、2023年10月～12月に、道内外の20社から企業版ふるさと納税で1億3,480万円の寄附をいただきました。

町では、HOSPOの施設を拡充するハード整備と、町内の宇宙関連企業をサポートとするソフト支援を2本柱に、プロジェクトを進めています。今回の寄附の内訳はハード整備に9,430万円、ソフト支援に4,050万円のご支援をいただきました。



2022年からの合計で、延べ205社から24億8,335万円（内訳 ハード：10億1,665万円、ソフト：14億6,670万円）のご支援となりました。

いただいた寄付金は、現在整備中の衛星打ち上げ用ロケット射場のLaunch Complex-1（LC-1）と滑走路延伸工事に充てられるほか、HOSPOのPRや町内の宇宙観光の活性化などに活用します。

東京建物と包括連携協定を締結しました

1月26日、東京建物株式会社とSPACE COTAN株式会社との3者で、「宇宙版シリコンバレーの実現に向けた包括連携協定」を締結しました。

東京建物は、不動産デベロッパーとして都内での大規模再開発プロジェクトなど、まちづくりにおいて幅広い知見と実績がある会社です。3者の強みや特徴を活かし、宇宙港や地域資源を活用した更なる価値創出や、まちづくりを進めるため協定締結に至りました。

宇宙産業の集積による地域活性化には、ロケット打ち上げ見学場などの施設や、働く人の住宅や宿泊施設、工業団地の整備などスペースポート周辺の「まちづくり」の取り組みも重要です。



左：東京建物 神保取締役常務執行役員、中央：黒川町長、右：SPACE COTAN 中神取締役CMO

東京建物と連携することで、HOSPOを核とした魅力的なまちづくりや北海道に航空宇宙産業の集積する「宇宙版シリコンバレー」の早期実現をめざします。

ロケット発射疑似体験を開催しました

2月4日、大樹町生涯学習センターで「ロケット発射疑似体験」を開催しました。
インターステラテクノロジズ社が大樹町で打ち上げた「MOMO初号機」から「MOMO7号機」までの発射映像をスクリーンに映し、発射ボタンを押すと映像とリンクして、大音量で迫力のあるロケット発射を体験できます。
参加者からは、「大樹町でMOMO7号機まで打ち上げられていたのは知らなかった」、「地球がきれいに見れた」など大好評のイベントとなりました。



VR宇宙旅行体験を開催しました

1月13日から2月12日まで、道の駅コスモール大樹にて、「VR宇宙旅行体験」を開催しました。
VRゴーグルを装着することで、スペースバルーンに搭乗し、宇宙空間に到達するまでの小旅行を、約6分半の高精細8K360度映像で体験できます。
また今回の映像は、映像制作技術サービス事業などを営む「IMAGICAグループ」が製作しました。
期間中の1カ月間で、老若男女問わず、約300名の方に宇宙旅行を体験していただきました。



コラム 宇宙産業成長の背景とは

世界の宇宙産業の市場規模は、2020年の40兆円から2040年には110兆円になると言われています。その主な背景は、小型人工衛星の需要拡大が挙げられます。ここ10年間で世界で打上げられた人工衛星は約80倍ほどに増えています。

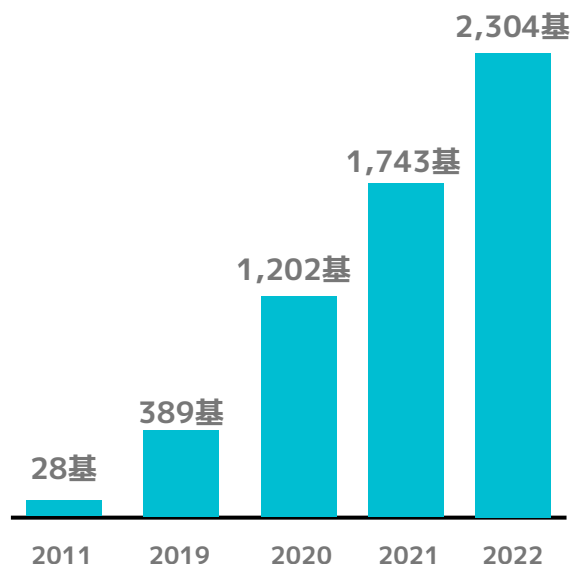
宇宙産業の最も大きい市場は、衛星を活用した「衛星サービス市場」です。スマートフォンなどのデータ通信サービスや、地球観測（リモートセンシング）といったデータを取得するサービスなどがあまります。

今後は人工衛星を活用し、地球のどこでもインターネットへ接続できたり、農薬散布や肥料投与の最適化、好漁場の予測など様々な形での利用が期待されています。宇宙開発を進めることは、地上の生活を快適にすることにつながっていきます。

しかし、衛星の打ち上げ需要に対して、宇宙へ衛星を運ぶロケットや射場の設備が少ないことが世界的な課題となっています。

北海道スペースポートを整備し、インターステラテクノロジズ社のようなロケット会社に利用してもらうことで、そうした課題解決に役立っていきます。

小型衛星の打上げ実績



出典：BryceTech “Smallsats by the Numbers 2023”